

企画提案書概要版

1 業務に対する考え方（取組姿勢）

若者無業者の現状と支援

- 若者が抱える就労阻害要因は多様でそれぞれが複雑に入り組んでいる
- 支援希求性に乏しく自ら動けない
- 個々に応じたステップが必要

就労支援前段階からの
生活支援・就労意欲醸成等が必要
本事業 すぎトレ の意義

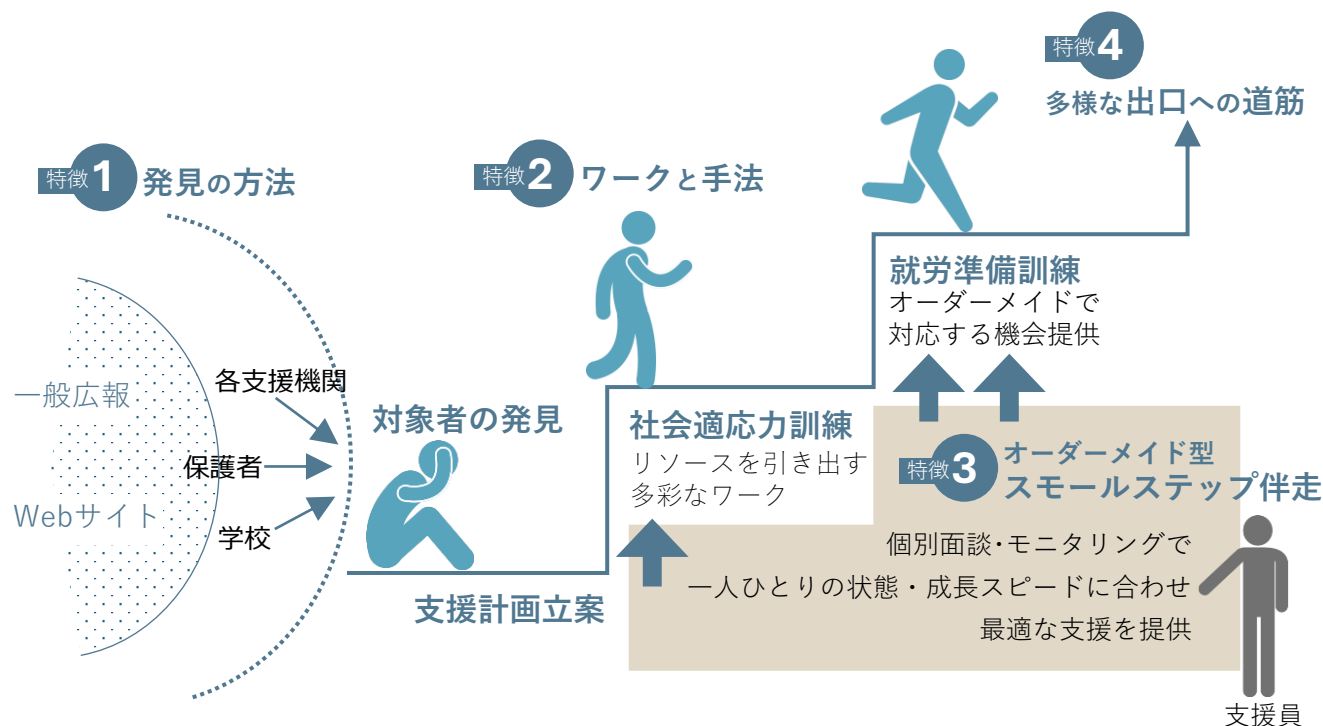
若者支援専門団体
としての当法人の使命

H25（2013）年より
受託する
ノウハウと経験

当法人のノウハウ・経験を生かして
本事業の運営にあたります。

- 若者自立支援専門団体として新しい手法を模索。効果を確認できたものは公共セクターに提供。
- 本事業において、年度ごとに課題を洗い出し改定。時代や対象者像の変化によって柔軟に対応。

2 提案内容の全体像...訓練事業業務の特徴



特徴1 発見の方法 自ら動くことが難しい対象者を周囲の人々の協力で発見してゆく

特徴2 ワークと手法 本人のリソースを引き出すワークで自己理解・自己効力感向上

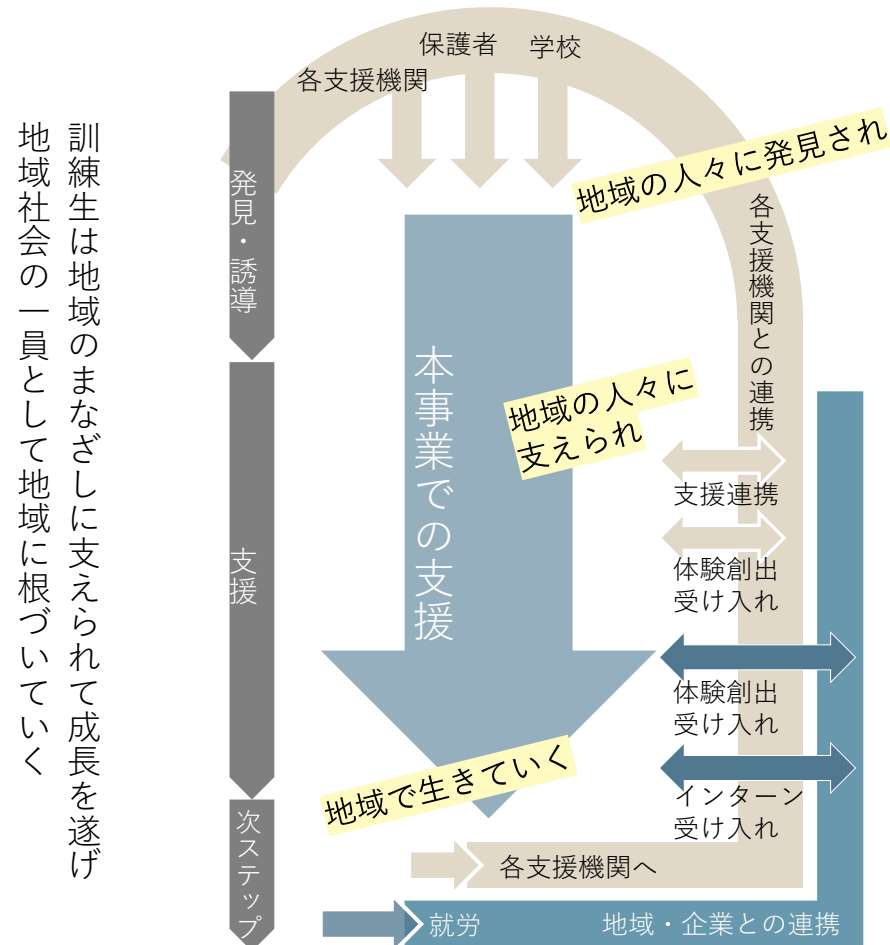
特徴3 オーダーメイド型スモールステップ伴走

「一人ひとりの課題設定」を実現し、徹底して個人に合わせる支援

特徴4 多様な出口への道筋

「一人ひとりの自立への道筋」を見据えた多様な出口の提案

2 提案内容の全体像...すぎトレ運営業務



新規登録者を集める段階から地域の各支援機関との連携によって「若者の発見」に努めており、支援の段階でも、地域の機関・団体・施設、企業などからの協力を得ている。卒業後の出口としては、その大半が地元機関、地元企業である。

3 提案によって期待される効果

●支援手法によってもたらされる効果

- 支援希求性の薄い若者無業者の捕捉
- 多種多彩なワークを地域を巻き込んで創出することで、若者に地域社会の一員としての自覚を促す
- 多様で複雑な就労阻害要因を持つ若者にオーダーメイド的にスモールステップ伴走することで個々の成長を促し、次ステップへと導く
- 個々に合ったオーダーメイド的出口を模索することで、次ステップのミスマッチを防ぐ

●若者自立支援機関としての役割からもたらされる効果

- 若者が支援のはざまに落ち込むリスクを回避する
 - 進路未決卒業者への対応と進路未決回避
 - 高校（大学）中退者への対応と中退リスクの高い若者の捕捉
 - 各支援機関が対応できない、被支援者への就労支援
- 若者支援を通じた地域のつながりづくり

杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務 企画提案書

1 就労阻害要因を抱えた就労困難者への就労支援の現状と課題について

項目	内容
就労困難の「多重要因化」	健康（精神・身体）／家族ケア／住居不安／所得不安／デジタル・スキル／社会的孤立が複合し、 就労阻害要因として肥大化 。 すぎJOB利用者50～70%が該当
接続の難しさ	東京都（都庁・労働局・都社協・都の横断計画）と、杉並区（自立相談支援・就労支援窓口・障害者就労・ひとり親支援・生活保護の就労自立支援等）が存在するが、 入口のわかりにくさ／継続伴走の工数不足／データ連携の弱さ がボトルネック
提案の方向性	以下三層統合で、 すぎJOBとの一体型運用 にて実現を図る。 ①一次予防（早期発見） ②伴走支援（中長期・多種） ③訓練・体験により、日常・社会生活、職業準備性を身に着ける

2 業務運営に対する取組姿勢について

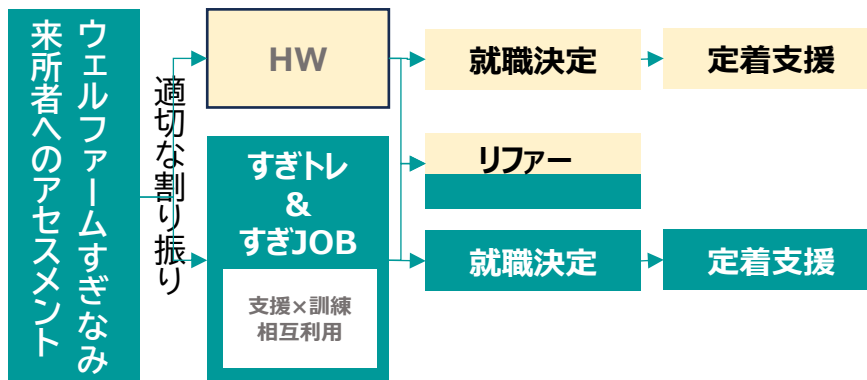
はたらくマルシェ<はたらく総合コンシェルジュの設置>によるワンストップサービス

- ①3施設の一体化
- ②新規登録者増加によるKGIの達成
- ③就業準備訓練、社会適応力訓練のバリエーション増
- ④支援期間6か月後、スムーズにすぎJOBへつなぎ、
就労決定から定着支援までサポートし続ける体制構築



①②④すぎトレ&JOBの一体型運営

③弊社内類似事業連携



- ・ゴミ拾いボランティア、落語、映画鑑賞会、ラジオ体操、折り紙細工、女子会、男子会等新しい魅力的な活動で来所を取り込む
- ・地域に根付いた訓練事業所開拓のノウハウを活用。

3 業務の実施体制について

- ①統括責任者1名、支援員7名（うち副責任者1名）を配置
- ②すぎJOBとの一体型運営及び弊社受託の練馬区・中野区事業等から事業サポート
- ③現行の従事者は転籍希望を丁寧にヒアリングし、雇用の継続・安定を確保

杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務 企画提案書

4 各業務について具体的な提案について

(1) 就労準備訓練事業業務

① 1年度間の訓練生の受入規模について、受入可能な人数とその根拠について

➡受入規模：80名／根拠：すぎJOB受付で支援×訓練を同時登録

②具体的な提案内容

➡対象者の個々の状況に応じて、寄り添いながら支援を実施。すぎJOBの面談支援前後に訓練事業をセット。職業準備性が整ったらすぎJOBやHWへつなぐ

(2) 社会適応力訓練事業業務

① 1年度間の訓練生の受入規模について、受入可能な人数とその根拠について

➡受入規模：100名／根拠：既存訓練プログラムとすぎJOB及び弊社受託事業との融合

②具体的な提案内容

➡社会生活自立：他者との「関わり」と「行動」の中で達成感や自信形成につなげる

➡事業所等体験：様々な「場（機会）」での体験で、経験し直し・学び直しを行い、マイナス経験を「プラス経験」に上書き

(3) 杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務

①福祉分野を含め他の就労支援機関等との連携体制について

➡すぎJOBで培ったこれまでの連携実績をさらに強化させる

②危機管理体制及び個人情報保護体制について

➡発生しうる事故を想定し、ルール化・フロー化することで事故の発生リスクを抑え、万一事故等が発生した場合には速やかに適切な初動対応を行う

③本事業のPR及び利用促進、利用者拡大の取組について

➡すぎJOB及び弊社受託事業の取組と融合

④その他の提案

➡現事業者と密に丁寧に連携し引継等を行い、利用者・協力事業所等をしっかり引き継ぐ

5 期待される効果

(1) すぎトレの利用者数の増加

(2) 利用者の状態にあった支援を行うことで、就労者数増加

(3) 一体的に支援する事により認知度をアップ

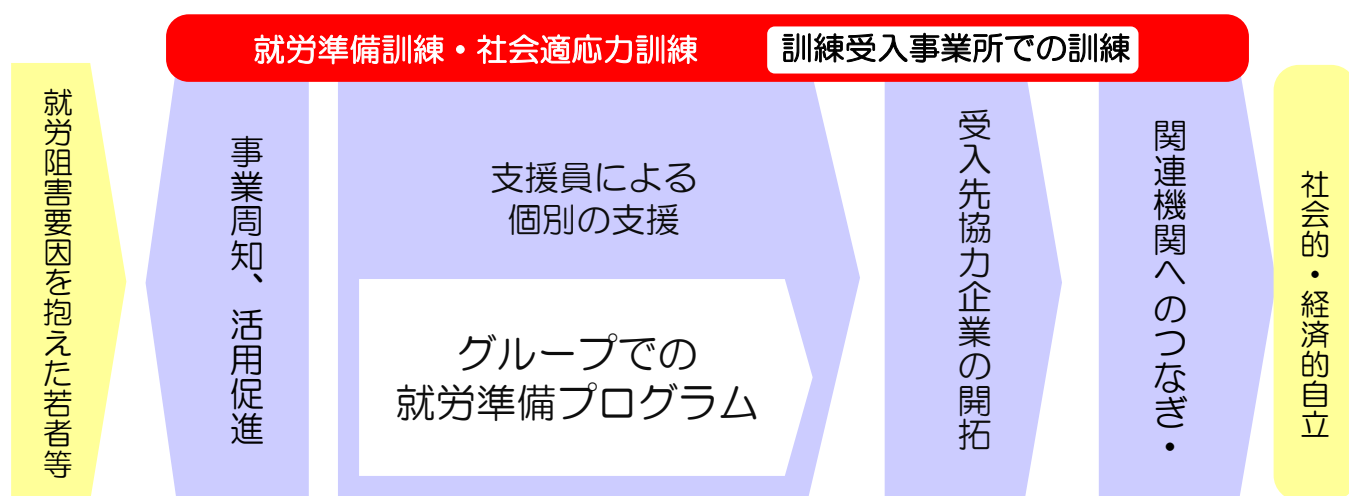
杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務 提案書概要版

①受託業務に対する考え方（取り組み姿勢）

対象者の抱える就労困難要因を理解した上で、多様な支援プログラムと、プログラムに協力いただける受入企業を開拓することで、支援対象者が働くことを通じて自立を目指すための第一歩を支援します。

②提案内容の全体像

- ・就労準備訓練事業業務
- ・社会適応力訓練事業業務



事業周知、活用促進	関連機関と連携した対象者、保護者への事業周知、活用促進
個別の支援	個別の就労困難要因に配慮した生活・社会・就労自立支援
グループでの準備プログラム	対象者の興味関心に合わせた多様な就労準備プログラム
受入先企業開拓	企業開拓実績を活かした体験等の受け入れ先の協力企業開拓
関連機関へのつなぎ	関連機関へのリファール、同行支援、定着支援

・杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務

関連機関との連携	類似事業の運営実績を活かした関連機関へのリファール
危機管理・個人情報	本社管理部門による統制を行い万全を期した安全管理体制、個人情報保護体制
PR、利用促進	類似事業での運営実績を活かした関連機関と連携した対象者、保護者への事業説明会等事業周知、活用促進

③期待成果

訓練受け入れ者数100名